

令和7年度宮崎県健康づくり推進協議会議事概要

日時 令和7年10月29日（水）

午後3時30分から午後5時まで

場所 県庁防災庁舎2階共用会議室

1 あいさつ

健康増進課長

2 会長・副会長選出

事務局案により、会長 金丸委員、副会長 佐野委員に決定。

3 議事

1) 報告事項

(1) 健康みやざき行動計画21（第3次）に基づく県の取組について（説明：事務局）

①健康づくり推進体制及び宮崎県の主な取組【資料1、資料2、参考資料】

②糖尿病予防戦略事業の取組について【資料3】

（委員）

今年度、適塩の普及啓発動画作成を行うと聞いており、当会からも出演すると聞いているが進捗はどうなっているか。

（事務局）

現在、県民の適塩を応援する適塩応援企業の登録事業を行っており、資料2には記載していないが、適塩応援企業と連携した県民への普及啓発動画を現在作成中で、公開予定としている。

（委員）

こっそり適塩について、令和7年度は対象を拡大しているか。また対象事業者を選定する際には、研修会等を実施して終了後に選んでいるのか。

（事務局）

令和7年度も、1事業者に委託で実施している。昨年度とは店舗を変え1店舗で実施している。実施店舗を増やすことは事業者の状況で難しい部分もあった。昨年度と今年度は検証という形で実施しているが、今後はより多くの事業者に実施いただけけるよう方法等検討している。

(委員)

店舗によって独自の味付けがあるため塩分を減らすことは難しいと思うが、特に味の濃いものに慣れると薄味は美味しいといふ風になってしまふので、減塩に慣れしていくことも大事である。これからも事業をすすめてほしい。

(委員)

運動など継続しない場合があり、活動が終わった後のアフターフォローをどのようにしていくかが大切。入口戦略と出口戦略をどのように考えているかご意見をお聞きした。

(事務局)

目標設定をし事業に取り組んでいるが、入口戦略と出口戦略については具体的なイメージを持っていなかった。

(会長)

受動喫煙について。法改正で飲食店の禁煙が整備進んでいるが、個人事業主など喫煙可として営業されている場合、お客様は喫煙できることを承知で行くが、営業する個人や家族は受動喫煙を受けることになる。受動喫煙の環境を整えていくという点でこのあたりのアプローチはどのように行っているか。

(事務局)

受動喫煙防止の啓発は、県民向けと飲食店向けに実施している。個人が飲食店の営業を判断されているためすぐには解決できない問題であると思われるが、現時点では飲食店が法に基づいた受動喫煙対策ができるかという点に重きを置いて啓発を行っている。

(会長)

飲食店の禁煙対策が増えていく中で受動喫煙の影響に対する啓発を継続して行ったり、禁煙支援の中で受動喫煙について啓発していくことなど引き続きお願いしたい。

(委員)

SALKOについて。昨年度所属の会議でSALKOの活用について報告したところ、会員より「操作方法について担当課へ問い合わせた際、『70歳以上は対象外』と説明があった。」との話があった。サルコペニア対策等で、高齢者が運動をすることも大切であるが、使用に年齢制限があるか。

(委員)

年齢制限は無いが、担当が説明をした際の状況が分からぬいため再度確認したい。また、

SALKOについては更新の時期となっている。これまで予算をかけアプリ導入保守管理を行っているが、最近では民間の同様のアプリも増えていることや、登録者は多いが実働が少ないことなどから、次年度以降の運用について現在検討中である。運用期間中は、皆様が使用できるよう引き続き対応したい。

(2) 部会の取組について

①二次医療圏地域・職域連携推進協議会の取組状況 (説明：事務局)

(会長)

各二次医療圏事にテーマを絞って取組が展開されていることが分かった。

②宮崎県糖尿病・慢性腎臓病（CKD）対策検討会の取組 (説明：事務局)

(会長)

取組が進捗しており、予防や進行を遅らせることにつながっている。透析導入の原因については、腎硬化症が増えており糖尿病性腎症は減少している。事業がうまく回っていると感じる。予防の取組としては、資料1～3の食事や運動、喫煙の事業も関連している。

2) 協議事項

健康無関心層へ向けた対策・アプローチについて (説明：事務局)

(委員)

健康無関心層の定義が不明であるが、この健康無関心層について県では何か把握されているものがあるか。無関心層について把握し分析することで、対策も見えてくるのではないか。

(事務局)

令和4年度の県民健康栄養調査では、生活習慣アンケートで食生活改善の意識の有無について確認しているが、運動や喫煙等の健康づくり全般の行動改善を想定したものでは無いため、今後の調査設計の際に検討したい。

(委員)

料理教室を開催しても参加される方は関心のある方のみで、どうすれば無関心の方に目を向けてもらえるかが課題と考えている。良いアイデアがあれば参考にしたい。

(委員)

予防活動は、健康を目的にすると難しい部分がある。こっそり適塩のように、健康を前面に出さないようにすると良いのではないか。

(委員)

公開講座を開催しても参加してくださるのは毎年同じ方ばかり。こっそり適塩については、現在独居の方でスーパーの弁当を利用される方もいらっしゃると思うので、もっと多くの店舗で実施できるように取り組んでほしい。運動については、このような会議の時なども駐車場が近くに無い方がたくさん歩くことができるので良い面もある。コンビニにたばこが売っていないとか、普段の生活の中で自然と健康になれる取組があると良いと感じる。

(委員)

健康を我が事のように感じにくい方へは、やはり健康を前面に出すのでは無く、何か楽しいことの結果として健康になるくらいがちょうど良い。例えば、市役所で健康経営の事業を行った際、美容を取り口にダイエットに取り組んだことで健康になったという例もある。

(会長)

健康無関心層へのアプローチは難しいが非常に大切な問題である。後日何か思い付いたことがあれば、事務局へ連絡してもらいたい。

全体を通して、県としてまた二次医療圏では保健所を中心に様々な取組が行われていると実感した。引き続き取組をお願いしたい。